

第 97 回歴史探訪の会「富田林寺内町巡りと“源氏”発祥の地について」

日 時： 2025 年 1 月 15 日

場 所： 大阪府・富田林市

案内人： 内海春樹

2025 年最初の例会は、大阪・富田林市の寺内町を巡りました。参加者 30 名、朝方までの雨も集合場所の富田林駅に着くころには止んでくれました。

寺内町とは、中世から近世の日本において、浄土真宗により建設された仏教寺院・道場(御坊)を中心に形成された自治集落のことです。壕や土塁で囲まれるなど防衛的性格を持ち、信者・商工業者などが生活しました。

また、富田林周辺の“河内”は古く平安時代から“源氏発祥の地”とされています。源氏はどの様にして生まれ、“武家の棟梁”になったのか、秀吉がなぜ征夷大將軍”になれなかったのか、などを学びました。

コース： 富田林駅～奥谷家住宅～越井家住宅～寺内町展望広場～興正寺別院～田守家住宅～杉田家住宅～葛原家住宅～寺内町センター～旧杉山家住宅(入館・見学)～炉端焼「わっしょい」(新春昼食懇親会)～富田林駅解散 歩いた距離-約 3Km



集合場所での説明



電柱の無い寺内町の家並み

<富田林地内町の誕生と歴史>

富田林寺内町は、戦(いくさ)と一揆が絶え間なかった 16 世紀半ばの戦国時代、ここ南河内、石川の畔に生まれました。永禄初年頃(1558～1570 年)、本願寺派の京都興正寺第 16 世の証秀上人が、南河内一帯を支配していた守護代から富田の「荒芝地」を銭百貫文で購入。興正寺別院の御堂を建立し、上人の指導のもと近隣 4 か村の庄屋株が中心となり開発が行われました。

町全体を仏法の及ぶ空間、寺院の境内と見なして信者らが生活をともにする宗教自治都市「じないまち」の誕生です。

現在も多くの町屋が残り、1997年10月に大阪府で唯一、国の「重要伝統的建造物群保存地区」として選定されています。（江戸時代から昭和初期の建物は181棟残されている）

又、寺内町のほぼ中心を南北に通る城門筋（市道富田林6号線）は、「近世の自治都市」として「日本の道100選」にも選ばれています。誕生した頃の寺内町は、外周に土塁を巡らせ、堀割や防火水路もありました。4か所ある町の出入口にはそれぞれ木戸門が構えられ、夜間は閉ざされて治安を守っていました。町は興正寺を中心に整然と並ぶ六筋七町で、宅地や畠などが計画的に配置されました。広さは東西約400メートル、南北約350メートルで現在の富田林町にほぼ相当します。

寺内町の運営は、近在中野、新堂、毛人谷、山中田の4か村の庄屋株を持つ「八人衆」で行われました。彼らは町の周囲を土居で囲んで戦乱を避ける町づくりを工夫すると同時に、地域の支配者から諸公事（税）を免除させたり、地元人に有利な裁判ができるような都市特権を獲得します。世に言う石山合戦の頃も、本願寺と同じ一向宗であるにもかかわらず織田信長に妥協し「寺内別条なき」という安堵の保証をさせています。寺院の威光を利用しながら都市特権を広げていくという、民衆のしたたかさを見ることができます。



安永7年(1778年)の村絵図

<見学場所>

1. 奥谷家

1820年ころ建てられ、2017年改修。材木商

2階は養蚕をしており換気のための窓がつけられる。煙りだし櫓が特徴



かまどの上部に作られた煙りだし櫓



虫籠窓

2. 越井家

安政時代の材木商、庄屋。明治時代の長大な蔵を有す(材木・米)
昭和初期の当主は 大阪鉄道の社長を務めた。



3. 興正寺別院

永禄初年頃(永禄年間 1558～1570 年)に京都・興正寺第 16 世証秀上人が創建した寺院。
城之門筋に表門(山門)をおき、鐘楼・鼓楼を構え、本堂・客殿・庫裏などがあります。
又、表門(山門)は、伏見城門が活用されていると言い伝えられています。本堂、対面所、
鐘桜、鼓楼、山門、御成門(おなりもん)、附(つけたり)築地塀 3 棟が国の重要文化財に指定されています。



伏見城の門を移築したと伝えられる表門



本堂内部

4. 田守家

18 世紀前半の河内木綿商。3 連の蔵を有し寺内町で 2 番目の広さ。

5. 杉田家

18 世紀後半の油商。土蔵が多く残る。



田村家 3 連の蔵



杉田家 家の安全を守る鐘馗(しょうきさん)の瓦

6. 葛原家

1854 年建設。酒造業。とても珍しい三階蔵（年貢米）。寺内町のランドマーク。



葛原家 三階蔵

7. 旧杉山家(屋内見学)



旧杉山家全容

国の重要文化財「旧杉山家住宅」は、富田林寺内町の創設にかかわった旧家で随一の豪商であり、江戸時代は造り酒屋として栄えました。現存する家屋は寺内町で最も古く、江戸時代中期の大規模商家の遺構として、国の重要文化財に指定されています。

富田林市では、旧杉山家住宅を寺内町の代表的な町家として保存し一般公開しています。与謝野晶子と並ぶ女流歌人 石上露子(ペンネーム)、本名 杉山タカの生家、最後の当主。



土間での説明



立派なかまど



床の間

【武家の誕生 源氏と平氏の起こり】

平安時代に安定した皇位継承のために天皇は多くの皇子をもうけることが求められましたが、それら多くの皇族に所得を与えることが財政的に困難になってきたため、皇位継承の可能性がなくなった皇族たちに姓を与え臣下の身分に降下させるようになりました。(臣籍降下)

源姓や平姓は、これにより与えられた姓です。

平姓は第 50 代桓武天皇の流れをくむ桓武平氏がもっとも有名で、平清盛もその流れです。一般に平氏といえば、この桓武平氏を指します。

源姓は第 52 代嵯峨天皇の流れをくむ嵯峨源氏から始まり、さまざまな源氏が活躍しました。最も有名なのは源頼朝や足利尊氏を輩出し将軍の家柄となった第 56 代清和天皇の流れをくむ清和源氏です。また、多くの公家を輩出した第 62 代村上天皇の流れをくむ村上源氏は家格でいえば源氏の中で最も高いといわれています。

河内源氏について

11 世紀の中頃、源満仲(みなもとのみつなか)の子頼信(よりのぶ)は河内国司に任ぜられて、河内国石川郡壺井に屋敷を構えました。その後、頼信の子である頼義(よりのよし)と孫の義家(よしいえ)の三代が壺井を本拠地としたことから「河内源氏の発祥の地」と言われるようになりました。頼義と義家は、前九年の役や後三年の役で活躍し、特に義家は八幡太郎(はちまんたろう)と呼ばれて東国に地盤を広げ、武家の棟梁としての地位を確立しました。鎌倉幕府を開いた源頼朝の先祖

にもあたります。88歳でこの世を去った頼義は、遺言により河内源氏の菩提寺(ぼだいじ)である通法寺境内の西端に埋葬され今でも石垣に囲まれた基壇(きだん)が残っています。また、頼信、義家は通法寺の南の山上に葬られたと伝えられ、円形の塚が残されています。

天下人となった“豊臣秀吉”と“徳川家康”について

秀吉は出自が百姓であり、全国統一を図ったものの征夷大將軍にはなれず、“公家”の最高位“従一位、関白太政大臣”となる。これは公家以外では初めての事。

家康はもともと“松平氏”だが、源氏系の“新田氏”を名乗り“征夷大將軍 源朝臣徳川家康”と名乗る事ができた。



武家の誕生、源氏と平氏、河内源氏についての説明

平氏、及び源氏の系図を最後のページに記載していますのでご覧ください。

昼過ぎに見学会は終了しましたが、参加者は富田林寺内町を初めて歩いたという人が多く、その立派さに感動していました。その後、“新春昼食懇親会”を楽しみました。



新春昼食懇親会 — ①



新春昼食懇親会 — ②



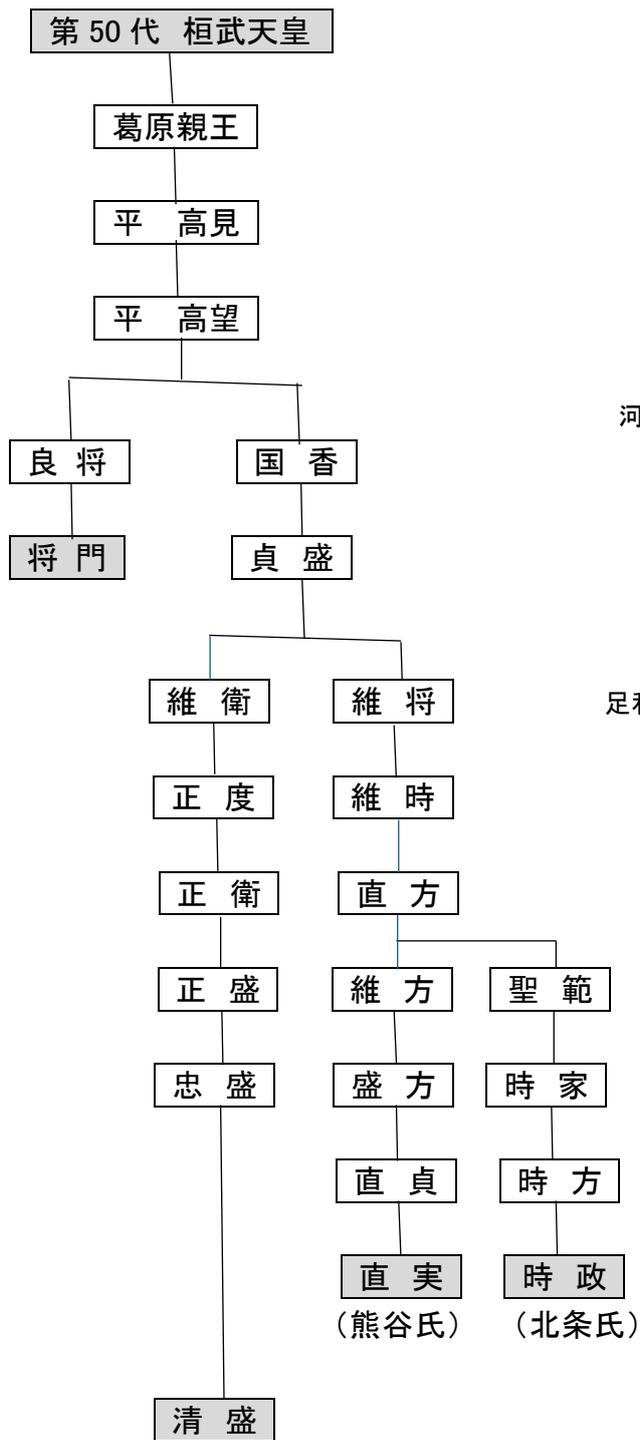
興正寺別院 本堂にて



旧杉山家にて

平氏と源氏の系図

<平氏系図>



<源氏系図>

源氏の起こりは第 52 代嵯峨天皇ですが、表舞台にたつ源氏は第 56 代清和天皇の子孫です。

